

『RSウイルス母子免疫ワクチン』について

令和8年(2026年)4月1日から、

『RSウイルス母子免疫ワクチン』の公費(無料)接種がはじまります！

【対象者】

令和8年(2026年)4月1日以降に、
妊娠28週0日から36週6日までの妊婦さん
(出産予定日が令和8年4月23日以降の方)



※予診票は母子健康手帳交付時のお渡しを予定していますが、
既に母子健康手帳の交付がされている方へは3月末に予診票を郵送予定です。

※28週から31週での接種が最も有効性が高いと示されています。

母子免疫ワクチンとは？

妊娠中に接種することで、母体内で作られた抗体が胎盤を通じて赤ちゃんに移行し、
赤ちゃんを感染症から守ることを目的としたワクチンです。

RSウイルス感染症とは？

- RSウイルスの感染による急性の呼吸器感染症で、乳幼児に多い感染症です。
- RSウイルスは年齢を問わず何度も感染を繰り返しますが、初回感染時には、
より重症しやすいといわれており、特に生後6か月以内に感染した場合には、
細気管支炎や肺炎など重症化することがあります。
- 生後1歳までに50%以上が、2歳までにほぼ100%の乳幼児が少なくとも
一度は感染するとされています。

主な症状

- 潜伏期は2～8日とされ、発熱、鼻汁、咳など上気道炎症状が数日続き、その後、場合によっては、
気管支炎や肺炎などの下気道症状が出てきます。
- 初めて感染した乳幼児の約7割は軽症で数日のうちに軽快しますが、約3割では咳が悪化し、喘鳴
(ゼーゼーと呼吸しにくくなること)や呼吸困難、さらに気管支炎の症状が増加します。
- 重篤な合併症として注意すべきものには、1歳以下では中耳炎の合併症がよくみられる他、無呼吸
発作、急性脳症等があります。



詳細は、磐田市ホームページにてご案内しておりますので、ご確認ください。
「RSウイルス母子免疫ワクチン」(ページ番号:1016079)

磐田市こども若者家庭センター 0538-37-2012

